

3・2 青潮発生状況

2024年4月から2025年3月までの青潮発生状況を表2に示す。8月16～20日に発生した青潮では、浦安沖で魚数百匹（魚種不明）のへい死、浦安護岸でボラ・クロダイのへい死、稲毛の浜で魚数十匹（魚種不明）のへい死報告があった。また、9月24～10月7日に発生した青潮では、船橋港日の出水路でハゼ・コノシロのへい死報告があった。

表2 2024年度の青潮発生状況

期間	発生場所（最大時）	漁業被害等
8/16～8/20	浦安沖、三番瀬～船橋港～茜浜、幕張沖、 検見川浜～稲毛の浜～千葉中央港	魚数百匹（魚種不明）（浦安沖）、 ボラ・クロダイ（浦安護岸）、 魚数十匹（魚種不明）（稲毛の浜）の へい死報告あり
9/24～10/7	船橋港～茜浜～幕張沖～稲毛の浜～千葉中央港	ハゼ・コノシロ（船橋港日の出水路）の へい死報告あり

3・3 青潮発生時における周辺海域の水質

幕張沖で青潮の発生が確認された9月26日及びその2週間前の9月12日のSt.99（幕張沖深堀部）における多項目水質計による鉛直方向水質データを図2に示す。なお、12日を点線、26日を実線とした。

12日の鉛直方向水質データについて、酸化還元電位（ORP）の値は、表層から200mV前後を示していたが、水深9m付近で急激に低下し、それ以深では負の値を示した。また、溶存酸素量（DO）は表層で10mg/L以上を示していたが、水深9m以深では0mg/Lに近い値を示しており、これらのことから、水深9m以深に貧酸素水塊が蓄積していたことがわかる。さらに、水深9m付近で水温、塩分が逆方向に急激に変化するいわゆる躍層が見られた。

26日には、表層のDOは2mg/L程度まで低下し、4m以深で0mg/Lに近い値となっており、下層の貧酸素水塊が湧昇してきたことが示唆される。また、水温と塩分について、躍層が見られなくなり、上層と下層の水質の差が小さくなっていた。青潮を境に海水の鉛直混合が始まったことが推測される。

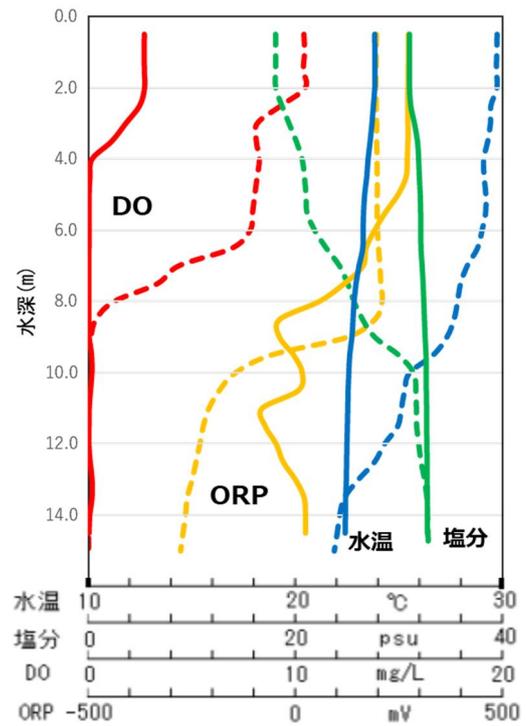


図2 9/12,9/26の鉛直方向水質データ（St.99）

引用文献

- 1) 飯村晃, 東京湾のモニタリング. 表面科学 36 (4) . 207-208. 2015
- 2) 東京湾の青潮発生状況. 千葉県環境研究センター年報 (2022～2024).
<https://www.pref.chiba.lg.jp/wit/nenpou/index.html> (2025年11月時点).